

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276600323
法人名	有限会社 ナチュラル・ライフ
事業所名	グループホーム桜寿
所在地	静岡県磐田市池田391-1
自己評価作成日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kai.gokouhyou.jp/kai/gosi/p/Top.do?POD=22>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人しずおか創造ネット
所在地	静岡県葵区千代田3丁目11番43-6号
訪問調査日	平成23年12月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住んでいる入居者が暮らしやすく、家族、地域の方々が来所された際も気持ち良く感じられるように掃除を行っている。地域の小学生の登下校の見守りに参加するなどし、地域とのつながりを大切にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

静岡県西部にある磐田市に位置し、近くに天竜川や国指定の天然記念物「熊野(ゆや)の長藤」がある住宅地です。事業所では「尊厳のある、その人らしい穏やかな生活」を合言葉に寄り添っていく介護を目指しています。若いスタッフも多くおりますが、地域に溶け込み、自治会の行事や夏祭りには入所者、ご家族も積極的に参加しています。また家族への対応をする専任スタッフを配置し、要望や過去のデータを収集する「ケース記録」を活用するなどの介護を進めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「尊厳のある その人らしい 穏やかな生活」をホームの理念とし常に職員が再確認できるよう事業所へ掲げ、入居者や家族の思いを取り入れながら実践できるよう努めている	理念は事業所に表示するとともに、朝の申し送り時のカンファレンスで再確認しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し地域へ行事への参加をさせて頂いたり、近隣の高校生の実習を受け入れるなどしている。又地域の見守りの旗振りに参加している。	池田地区の夏祭りなどに参加させてもらい、地域で席を用意してくれています。職員も準備、後片づけの協力をさせてもらっています。また、通学路の防犯パトロールの旗振りも始め喜ばれています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では「認知症」についての質問があればお答えする他、相談などあれば協力させて頂きたい旨を伝えている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催し、現状の報告、情報交換やサービスの質の向上に生かせるよう努めている	行政、地域包括、自治会、ご家族が参加し活発です。防犯の旗振り、こども駆け込み110番も、ここでの提案から実現しました。また近くの用水路の柵設置も実現しました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市が行う事業者会議に参加させて頂いたり又、市町村の担当者とは連絡、報告を通じ連携をしながら質の向上に努めている	介護事業者会議が、年3～4回開かれ交流を深めています。また実地指導もあり、昨秋の台風被害を受け、風水害対策計画書をまとめ提出したところです。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成し、職員の意識向上と共に、日中は玄関の施錠はせずに安全の配慮ができるように努めている。又身体拘束について研修を行い職員が身体拘束について認識できるようにしている。	身体的、言葉の拘束も行わないように職員の教育をしています。過去、ゲートの所に安全確保のためのセンサーを設置していました。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルの作成、周知等を徹底し全職員が理解できるよう努めている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、介護支援専門員は制度についての理解し必要であれば適切な利用ができるように努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約時には、御家族が御理解して頂けるように十分な説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常会話の中から思いや考えを汲み取れるように努めていると共に苦情相談窓口として第三者機関の窓口の説明をしている	ご家族の意見、要望等を汲み取り、対応するスタッフを決め、窓口をつくりました。ここから、散歩に連れて行ってほしい等の家族の要望が聞け実現しています。	ご家族の意見、要望はより良き介護運営の宝箱です。更なる意見収集と反映に期待しています。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別の面談を設け意見を聞き反映に努めている	職員とは管理者が個別に面談し意見を聴取しています。昨年アンケートも行い、業務の見直し、タイムスケジュールの改善等を実施しました。外部研修派遣も活発にします。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が個々に責任を持った業務をもってもらうことで、自信とやりがいに繋げていけるよう、又、職員の現状の把握をしながら適切な対応に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個別にあった研修の計画に努めている。又新人職員への座学や担当職員をつけて勤務し、ケアの行い方、業務を指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加する事で交流や意見交換ができるように努めている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人訪問をし状況把握と家族からの情報収集を行い、職員間で共有しそれまでの生活が継続できるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御相談から入居まで継続して家族の状況や思いを理解していけるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人、御家族にとってグループホームへの入居が必要なのか、適しているのか検討、対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者ができることは積極的に行っている。又職員が教えてもらう等介護されるだけの立場にならず活躍できるように努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の御本人の様子など、面会時や電話でお伝したり、要望をお聞きするなど御家族と共にケアへ反映できるように努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族の御協力を頂きながら可能な限り行えるように努めている	この支援には、入居前からの利用者の情報把握が大切とされています。また交通安全の旗振りのきっかけは入所者と子どもの手紙のやりとりだったということで、なじみの関係づくりが交流を深めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席などを工夫し入居者同士が話しやすいようにしている。又必要な方は職員が間に入り、コミュニケーションがスムーズにいくよう配慮している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要な場合には関係を継続して適切な支援を行えるように努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	バックグラウンドや家族からの情報を基に、本人の希望を考えるように努めている	事業所では、過去の事、利用者の要望などを職員が出し合い、記録にまとめ、記録の情報を元に情報の共有、支援に役立てています。入所者からの意向が聞き取りが難しい方は家族からも情報をいただいています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	バックグラウンドや家族からの情報を参考に把握できるよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	「毎日の記録」への記入を基に職員間で情報を共有し、変化をカンファレンスで話し合うようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	基本的には3ヶ月で介護計画を見直しを行い、作成後は家族の同意を頂き、要望を盛り込めるよう努めている	介護計画を作る際に情報を持ち寄り、職員だけでなく、ご本人の気持ち、家族の考えも取り入れながら作成をしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づき、日々の記録を記入しケアや介護計画に見直しをするように努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要な場合には、検討をし対応ができるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事への参加をさせて頂くほか、近くのスーパーや観光地等へも行き楽しめるように努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医による月1回の往診、月2回の歯科往診の他、必要に応じて受診をしている	必要に応じての受診は職員が対応し、医師との連携は順調です。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所とかかりつけ医の看護師にも、相談・支持を受けれる体制になっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、情報を交換し合う事で、お互いによりスムーズに受け入れ、体制が整えられるように努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の指針を入居時に説明すると共に御家族、かかりつけ医、看護師、職員がそれぞれの立場で本人のより良い最期を迎えられるよう協力し支援している	重度化した場合の指針に同意してもらい、終末期を迎えます。施設や病院では出来ないくい寄り添ったターミナルケアを目指しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変の状態変化のマニュアルを作成すると共に必要時には看護師からの指導も取り組んでいる		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を実施し消火器や布団での消火の仕方を学んでいる。又非常時に必要なライトやラジオ等一か所にまとめている	防災訓練は年2～3回実施、今年は特に厨房のシンブラ油火災の防止に力を入消防隊員の指導を受けました。また昨年地震、台風による停電の経験で必需品の不足、備蓄の必要性を再認識しました。今後、地域の避難場所の役割を果たしたいと考えています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であるという事を忘れず、これまでの経験を尊重しながら言葉掛けや対応をしている	言葉がけでは無意味に「ちゃん」をつけて呼ばない、失禁時は、さりげない対応をするなど心がけています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で入居者に決めて頂けるようにその方の理解しやすい言葉掛けや選択できるような支援に努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者が居室で過ごす時間も大切にし無理に居間に誘うのでは無く、本人のペースで生活してもらえるように努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1人1人に似合った身だしなみに気をつけ、意向があれば理容店に出かけたり、訪問理容も活用している。理容の際は伝えられる方は自分の好み等を伝えてもらっている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備時から出来ることを一緒に行っている。食事は入居者の食べれないメニューの場合は別メニューにするように努めている	会社の栄養士がメニューを決め、曜日の半分は厨房員が調理しています。食材はネットスーパーを主に活用し楽しい食事を目指しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	三度の食事にこだわらず、一日の食事・水分量の把握に努め、必要な場合には捕食などにて補っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1人1人に応じた口腔ケアを行っている。月二回の歯科往診があり、治療・口腔ケアを行っている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のリズムに合わせた声掛け、トイレ誘導をしている。又リハビリパンツやパットも使用しながら自立への支援をしている	その方に合ったトイレへの誘導や声掛けで、入居者が行きたくなるような支援を行っています。自宅での状態からの改善が見られる方もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝牛乳を飲んだり、手作りの寒天ゼリーで食物繊維をとったり工夫している。必要に応じて服薬にて排便コントロールをしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	可能な限り、時間にこだわらず、個々に合った声掛け又は誘導をし、個々のペースにあった入浴ができるように努めている	時間にとらわれない入浴に努めています。浴槽を怖がる人には、無理せずシャワーにしたり、入浴を嫌がる人には声掛けや誘導に工夫するなどを試みています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況チェックシートを活用し、睡眠量の把握に努めている。必要な場合には日中でも休息の時間を促したり、和室で横になって休んでもらっている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理はホーム側で行い、薬の効果、副作用をスタッフがわかるようにしてある		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	バックグラウンドの情報を基に、役割を持て一緒にいえるように努めている。嗜好品として、たばこを吸いたいときに吸えるようにしたり、飲酒をする習慣がある方はお酒が飲めるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には庭に出て日光浴を楽しんだり、花に水をあげる等本人の状況に合わせて支援している。又希望で買い物やカラオケに行ったりしている。	庭に日光浴にでたり、近所のスーパーへ本人が買いたいものを買に行ったりしています。今年は回転すしを食べにいたり、カラオケに行ったりしました。名物の「熊野の長藤」は年に1回ですが楽しみにしています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を持っていたい方は、ご家族に説明の上、本人にあった金額を持っていたいっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば電話をかけられるようにしたり、ご家族からの電話の取次ぎをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	目で見てわかるように、季節に合った花を飾ったりしている。音や光など入居者の方が不快な思いをされないよう努めている	花や季節にあったもので共有空間を飾り、生活感、季節感を感じてもらえるように工夫しています。今年は生け花と鏡餅で正月を飾る準備をしていました。また広い和室もあって、くつろげる場所になっています。玄関には行事や入居者の様子がわかるなどの写真を掲示できるように準備しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の席は、入居者の方々の関係性を考慮した座席としている。又和室は入居者さん同士が一緒に過ごしやすいようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り、自宅で使い慣れた物を持ち込んで頂き、居室が馴染みの場所となり、落ち着けるようにしている	使い慣れた物が、居室にあると、入居者は落ち着きます。使えない冷蔵庫、開かない金庫を持ち込む人もいますが、その方にとっては普段からみなれてきた家具であり、居心地のいい空間づくりになっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者本人が自力でトイレに行きやすい様に、照明はトイレ周りが明るく場所が分かりやすい工夫をしている。又和室への段差では上りやすい様に手すりを設置している。		